

# I 調査実施の概要

## I 調査実施の概要

### 1 調査の目的

「高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画」の策定にあたっては、高齢者等の日常生活実態及び介護者の介護実態を把握し、本市における地域を含めた課題整理を行い、今後目指すべき地域包括ケアシステム構築のあり方とサービス基盤の方向性を検討し、将来推計の基礎資料を得るため、本調査を実施しました。

### 2 調査対象

①介護予防・日常生活圏域二一ズ調査 (65歳以上)	令和4年12月1日現在で、市内在住の要支援・要介護認定を受けていない65歳以上の市民の中から1,500名を無作為に抽出
②在宅介護実態調査	令和4年12月1日現在で、市内在住の65歳以上の要支援・要介護認定者の中から500名を無作為に抽出
③第2号被保険者対象二一ズ調査 (40～64歳)	令和4年12月1日現在で、市内在住の40～64歳の市民の中から800名を無作為に抽出

### 3 調査期間

令和5年1月16日(月)～令和5年1月31日(火)

### 4 調査方法

郵送配布・郵送回収による郵送調査。

### 5 回収状況

#### (1) 有効回答者数と回答率

	対象者数	配布数	回答数	有効回答数	有効回答率
①介護予防・日常生活圏域二一ズ調査	9,943人	1,500件	1,203件	1,201件	80.1%
②在宅介護実態調査	1,157人	500件	380件	380件	76.0%
③第2号被保険者対象二一ズ調査	18,816人	800件	504件	504件	63.0%

※圏域あたり500通×3圏域分

#### ・日常生活圏域の定義

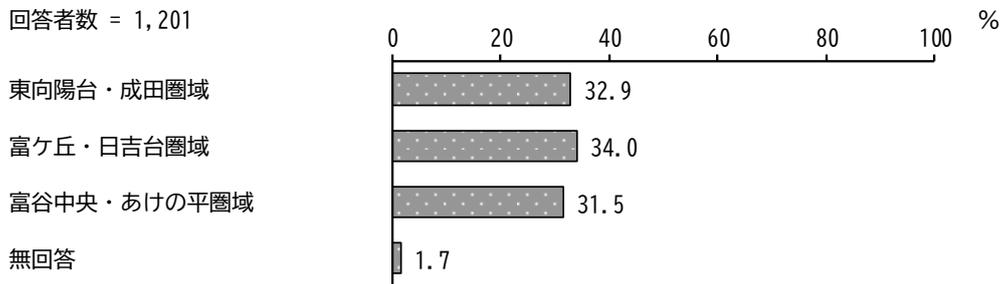
日常生活圏域名	地区名
東向陽台・成田圏域	成田・大清水・上桜木・明石台・東向陽台
富ヶ丘・日吉台圏域	富ヶ丘・鷹乃杜・日吉台・杜乃橋
富谷中央・あけの平圏域	太子堂・ひより台・グリーンヒル(一ノ関の一部)・とちの木・あけの平・その他(上記以外の地区)

## (2) 有効回答者の属性

本調査における有効回答者の属性は以下のとおりです。

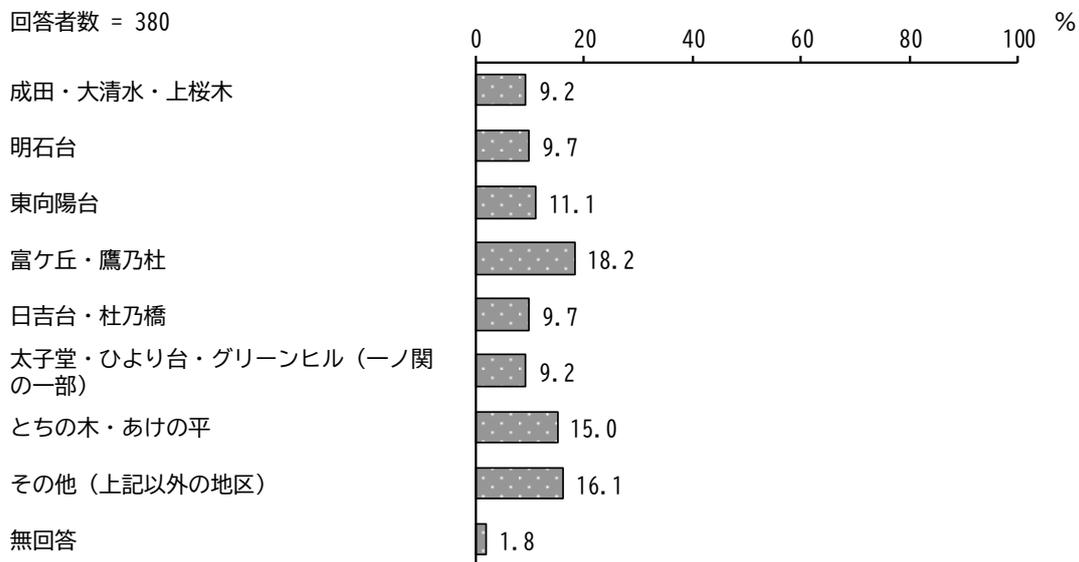
## ①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

回答者数 = 1,201



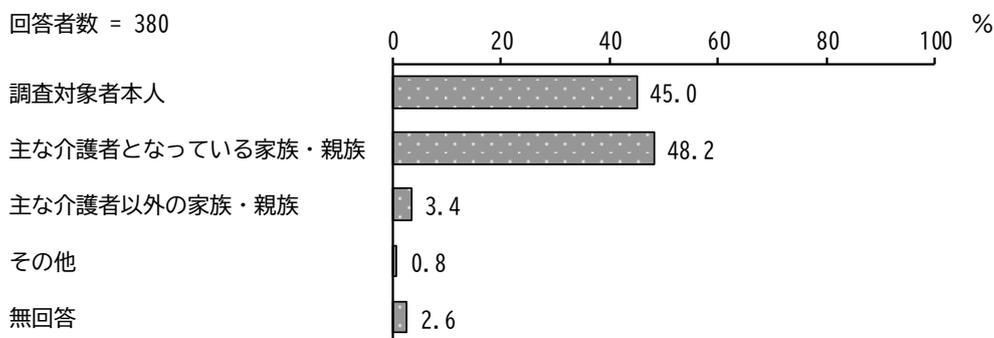
## ②在宅介護実態調査

回答者数 = 380

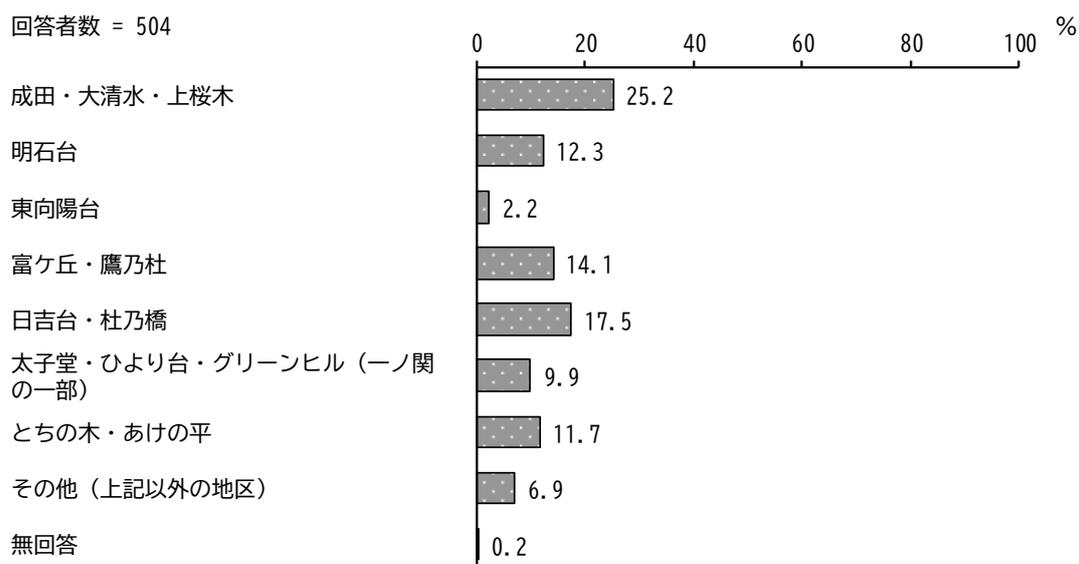


## 調査回答者（A-問1）

回答者数 = 380



## ③第2号被保険者対象ニーズ調査



## 6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。

## 7 「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」結果の分析について

本報告書は、要介護状態になる前の高齢者のリスクや社会参加状況を把握することに主眼を置き、「介護予防・フレイル対策、認知症予防※」へとつなげていくための、基礎調査として位置づけられています。

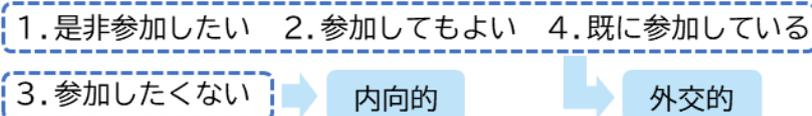
フレイルとは加齢とともに体や心の働き、社会的なつながりなどが弱くなった状態のことを指し、予防に取り組むことでその進行を緩め健康な状態に戻すことも可能であることから、高齢者をタイプ別に分類し、虚弱高齢者(加齢や疾患によって心身状態が虚弱であって、要介護状態ではないが、何らかの支援をする高齢者)を把握する項目とのクロス集計・分析を行います。

なお、高齢者の「タイプ別分類」は、下記に示すように問「週に1回以上は外出していますか」及び問「健康づくり活動や趣味等のグループ活動に参加者として参加してみたいと思いますか」の設問より判定しています。

問 週に1回以上は外出していますか。



問 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。



タイプ別分類	特性	想定される事業の方向性
インドア派 外交的	現在は、自宅の中で楽しむ志向が強いが、潜在的な外交的志向がある	・介護予防事業、サロンへの参加促進 ・ボランティア等への参加促進 ・自宅でできる健康情報の提供 など
インドア派 内向的	現在、今後も、自宅の中で楽しむ志向が強い	・介護予防など健康情報の提供 ・生涯学習情報の提供 ・在宅生活を支援するための情報提供 など
アウトドア派 外交的	自宅の外で楽しむ志向が強く、外交的志向もある	・みんなで出来る屋外スポーツの開催 ・各種事業の運営者との育成支援 ・ボランティア等への参加促進 など
アウトドア派 内向的	自宅の外で楽しむ志向が強いが、外交的志向はあまりない	・介護予防など健康情報の提供 ・生涯学習情報の提供 ・外で気軽に楽しめる場所の情報提供 など

※ 介護予防 : 健康な生活を長く続け、介護を受ける状態にならないようにすることです。

フレイル対策 : 「栄養(食・口腔)」、「運動」、「社会参加」をバランスよく取り組むこと。

認知症予防 : 糖尿病、高血圧などの生活習慣病の予防、運動不足の改善、社会参加による社会的孤立の解消や役割の保持などが発症を遅らせる(予防)可能性が示唆されている。

